

# 平成27年度「全国学力・学習状況調査」の結果 －分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について－

区名	淀川区
学校名	大阪市立加島小学校
学校長名	生長政彦

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成27年4月21日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数・理科）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただきため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一侧面に過ぎません。本校では、他の教科も含め、総合的に子どもの学力向上を目指しています。学校の現状や取組の参考にしていただきたいと思います。

## 1 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準向上の観点から、児童の学力や学習状況を継続的に把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

## 2 調査内容

### (1) 教科に関する調査（国語、算数、理科）

- ・主として「知識」に関する問題（A問題）
  - ・主として「活用」に関する問題（B問題）
- ※ 理科については、主として「知識」に関する問題と主として「活用」に関する問題を一体的に出題

### (2) 質問紙調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

## 3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全生徒
- ・加島小学校では、第6学年 125名

## 平成27年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

- ・全教科において、平均正答率が前年度を下回る結果となっているが、特に理科は課題を残す結果となった。
- ・ここ2年間無回答率については全国平均よりも低く、回答しようとする意識が高く思えていたのだが、今年度は国語における無回答率が高くなっている、読み取り問題への執着心の薄さが表れた結果ではないか。
- ・特別支援学級在籍の児童6名のうち5名が何ら支障の出ることなく最後まであきらめずテストを受けることができたことはインクルーシブ教育として6年間の成果ではないかと思える。

## 分析から見えてきた成果・課題

### 教科に関する調査より

〔国語〕とにかく読み取る力が弱い点が正答率にはっきりと表れている。読解力の低さが応用問題への対応力不足につながっている。引き続き読解力を高める読書活動や少人数授業、新聞づくりなど言語力を引き出す取組を継続して行う必要がある。ただ、点数として表れていないが、児童質問紙での「読書は好きですか」への肯定的回答が年々増加してきている点は行政の支援も含めたこの2年間の取組の成果ではないか。

〔算数〕ここ2年間はA問題において全国平均以上の正答率であったが今年度については結果として下回っている。それぞれの領域間ではあまり差は見られないが全体的に応用問題に弱く、結局読み取りの力不足に繋がっているのではないか。成果としては、2年間算数を研究テーマとし、少人数授業においても様々な工夫をした結果、算数については正答率は大きく下がらず、無回答率の低さも算数に対する意欲の高さからだと思われる。

〔理科〕知識に関する問題への正答率の低さがすべてを物語っている。理科の授業全般を課題と考え、今年度より研究テーマを新たに理科、生活科に据え、取り組み始めたところである。

### 質問紙調査より

- ・「家で学校の宿題をしていますか」の肯定的回答が全国平均とそれほど変わらないのに対して「家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか」「家で、学校の授業の予習をしていますか」「家で、学校の復習をしていますか」の肯定的回答数が圧倒的に少ない。また、「5年生までに受けた授業で扱うノートには学習の目標(めあて・ねらい)とまとめを書いていたと思いますか」の肯定的回答数は全国よりも高い割合から授業はしっかりと受け目的も把握していると言える。これらから、児童の自主的な学習意欲が育っていないことがわかる。授業や与えられたことに関してはやろうという意識は見られるが、やらされている感が強く指示待ちの態勢は否めない。自分で考え、行動する自主性において依然課題を残したままである。
- ・「読書は好きですか」の肯定的回答がここ3年間で順調に上がってきており、全国と比較してもあまり変わらない。図書館の整備や啓発活動の工夫、行政からの支援の成果がはっきりと表れてきているのではないか。

## 今後の取組

- ・本年度より研究テーマを理科、生活科に変え、科学的な思考力を育てていくことで自主的な学習意欲と個々の問題解決力の向上を目指していく。また、生物の飼育や栽培活動を引き続き活発に行い、観察力や探究心を深めさせるよう努めていくとともに、生命の大切さを今まで以上に感じさせていく。
- ・社会見学や出前授業、異校種連携など幅広い分野での体験活動を活発に行い、将来に展開していくような好奇心と向上心、そして正しい社会性を育成できるよう工夫を継続して行っていく。
- ・少人数分割授業の分割方法を学年、教科、単元などに合わせて今までのノウハウを生かしながらも、今までの形にとらわれず工夫していく。たとえば学年すべてを同じ時間に分割したり、習熟度別や児童の希望に合わせたりと、現状と長期的な展望を考慮しながら行っていく。
- ・睡眠指導や朝食指導などの食育についても保護者も含めた啓発活動、指導を継続させ、生活基盤を整えることでの学習意欲や自尊感情の向上を目指していく。

(2)